

令和7年度の 新型コロナワクチンの定期接種に関する広報について

厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部
予防接種課

令和7年度新型コロナワクチン定期接種に関する周知方針

- これまで、厚生労働省HPやSNS等で、新型コロナワクチンの有効性や安全性について、科学的根拠に基づいた情報提供を行ってきたところ。
- 今年度の新型コロナワクチン定期接種に関する周知についても、自治体や学会、企業と連携して以下の通り周知することとしている。

これまでの取組

【厚労省SNS・HPによる科学的根拠に基づく情報発信】

QA：SNSにおける情報収集の注意喚起

SNSやニュースでコロナワクチンが危険と取り上げられて不安です。どの情報を信じたらいでしょうか。

できるだけ、公的機関からの情報を確認しましょう。

SNSやメディアでは、新型コロナワクチンに関して様々な情報が溢れています。特に、SNSでは発信者が不明、または科学的根拠や信頼性の高い情報に基づいていない、不正確な情報があり、注意が必要です。

例えば、ワクチンを受けた後に起きたさまざまな出来事（自害事件）を、因果関係が分からないままに「ワクチンが原因である」と主張する方が見られます。ワクチンの有効性については、大規模な臨床試験だけでなく、接種を開始してから高感染率等から低下された感染率や、罹患しにくく重症化の割合が、接種を受けた方に対するオンライン調査、研究用による健康状態調査、国際機関等も科学的根拠に基づいて、継続的な学術的議論を通じて評価されています。

ワクチンの情報に関しては、複数の専門家のチェックを受けた、科学的根拠に基づいた情報発信をしている公的機関や信頼性の高い情報源を確認することをおすすめします。

コロナワクチンによるシェディングを否定したQ&A

レプリコワクチンは、自己増殖性のあるワクチンとのことですが、体内で無闇にウイルスのタンパク質が作られたり、接種を受けた方から他の方にワクチンの成分が伝播することはありません。接種しても問題はありません。

体内で無闇にタンパク質が作られることはなく、他の方にワクチンの成分が伝播するといった科学的根拠はありません。

レプリコワクチン接種後の体内におけるmRNAが増える一時的なものであり、無闇にウイルスのタンパク質が作られることはありません。

また、現在、色々と出て、新型コロナワクチンのレプリコワクチンを含め、様々な疾患を対象としたレプリコワクチンの開発が進められています。さらに、レプリコワクチンを受けた方から他の方にワクチンの成分が伝播することに関する科学的根拠はほとんどありません。

重要事項として、動物試験や細胞試験の結果に基づいて安全性が審査され、既存のmRNAワクチンと比較し、安全性に大きな差がないことが確認されています。さらに、重要事項として有効性、安全性の検証結果に基づいて、厚生労働省の承認を経て接種（ワクチン接種）が評価され、定期接種において使用することができます。

【対象者向けチラシの作成】

65歳以上の方などを対象に新型コロナワクチンの定期接種を実施しています。

新型コロナウィルス感染症とワクチンについて

接種できるワクチン

- 1 65歳以上の方
- 2 60～64歳で、基礎疾患のある方
- 3 60～64歳で、基礎疾患がなく、接種希望者

接種できる期間 10月1日～翌年3月31日

接種できるワクチン

接種希望者の方の申し込み

接種希望者の方の申し込み

ワクチンの効果

ワクチンの効果

ワクチン	有効性	安全性	接種回数	接種時期	接種場所
1
2
3

他のワクチンとの併用情報

併用情報

併用情報

併用情報

併用情報

【学会と連携した情報発信】

日本感染症学会・日本呼吸器学会・日本ワクチン学会と連携し、ワクチンに関する見解を発売

2024年度の新型コロナワクチン定期接種に関する見解（概要版）

2024年10月 日本感染症学会・日本呼吸器学会・日本ワクチン学会
COVID-19の高齢者における重症化・死亡リスクはインフルエンザであり、今冬の流行に備えて、10月から始まった新型コロナワクチンの定期接種を強く推奨します。

新型コロナワクチンは、65歳以上の者を対象に、定期接種B類疾病として2024年10月から接種が開始されました。新型コロナワクチンは、世界では2020年12月から1年間にCOVID-19による死亡を1,440万人減らし、わが国でも2021年2～11月の死者数を大きく減少させられています。また、2023年秋のXBB.1.5対応ワクチンは、わが国の高齢者のCOVID-19による入院を44.7%減少させました。

オミクロン株はXBB.1.5、JN.1、KP.3と数か月ごとに変異し、変異のたびに免疫回避力が強まっています。そのため流行を繰り返しており、今冬には再び大きな流行が予想されます。このような中、わが国の高齢者は若年層に比べてCOVID-19に罹ったことのない人が多く、引き続きワクチンによる免疫の獲得が重要です。

2024年の流行では、高齢者のCOVID-19による入院が増え、高齢者施設の集団感染も続いています。国の死亡統計では、5期感染性流行後年度のCOVID-19による死者数は32,578人で、新型コロナが出現前の60歳以上のインフルエンザ年間死者数10,908人より多く、COVID-19の疾病負担は依然として大きい状況です。*Hicks J. Am J Clin Epidemiol 2022

新型コロナワクチンの免疫予防効果は、ウイルスの変異の影響もあり、数か月で減衰するため、流行株に対応した新たなワクチンの接種が必要です。わが国でも2024年10月からJN.1対応ワクチンが新たに使用されています。なお、現在流行しているKP.3はJN.1の派生株ですが、JN.1対応ワクチンはKP.3に対しても一定の効果も期待されます。

今年度の方針

【行政（国・自治体）】

- ・ 定期接種の対象者に新型コロナワクチンの有効性、安全性等の情報を分かりやすく伝えることを目的とした動画を作成
- ・ 定期接種の対象者だけでなく、対象者の子世代や介護者を含めた幅広い年齢層を対象にリーフレット・ポスターを作成
- ・ SNSを活用した科学的根拠に基づく情報発信を継続

【学会との連携】

- ・ 昨年と同様に学会※と連携してワクチン接種に関する見解を公表 ※日本感染症学会、日本呼吸器学会、日本ワクチン学会

【ワクチン製造販売企業との連携】

- ・ 企業が取り扱うワクチンを接種することができる医療機関の情報を、接種希望者からの問合せに対して個別に提供する問い合わせフォームやコールセンターの仕組みを企業が構築するにあたり、厚生労働省から助言

定期接種対象者向けリーフレット（昨年度）

- 今年度も同様の定期接種対象者向けの、視認性が高く分かりやすいリーフレットを作成予定。

令和6年10月

65歳以上の方などを対象に 新型コロナワクチンの 定期接種を実施しています。



新型コロナウイルス感染症とワクチンについて

- 新型コロナによって重症化する割合は、65歳以上で高く、重症化しやすいこの年代の方及びこの年代に近く一定の基礎疾患を有する方を対象に10月から定期接種を実施しています。
- 今年度は「オミクロンJN.1系統の株*」に対応したワクチン*を使用します。
*JN.1系統の下位系統を含みます。



接種対象者

1

65歳以上の方

2

60～64歳で
心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり身の周りの生活を極度に制限される方。

3

60～64歳で
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。

接種できる期間 **10月1日～翌年3月31日** ※自治体によって実施期間が異なる場合があるため、詳細は、お住まいの市町村（特別区を含む、以下同じ）にお問い合わせください。

接種できるワクチン

定期接種では、以下のメーカーのワクチンを接種できます。自治体や医療機関によって接種できるワクチンが異なる場合があるため、詳細は、お住まいの市町村にお問い合わせください。

定期接種では、以下のメーカーのワクチンを接種できます※原不同	
mRNAワクチン	組換えタンパクワクチン
・ファイザー社・モデルナ社・第一三共社 ・Meiji Seikaファルマ社（レプリコンワクチン）	・武田薬品工業社



各ワクチンの
特性等の詳細については
こちらをご確認ください。

定期接種を受ける方法・費用

- 定期接種はお住まいの（住民票のある）市町村で実施されます。
- 接種できる場所や費用についての詳細は、お住まいの市町村にお問い合わせください。



ワクチンの効果

- 新型コロナワクチンは、有効性及び安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに、国内外で実施された研究において、新型コロナ感染症による入院などの重症化を予防する効果が報告されています。
- 2023/24シーズン（令和5年度秋冬の接種）で用いられたオミクロンXBB.1.5系統対応ワクチンの効果として、新型コロナ感染症による入院を約40～70%程度予防した等の報告（※）が国内外で行われています。
（※）VERSUS Study 第11報（2024）、Euro Surveill. 2024;29(1)、JAMA Intern Med. 2024;e241640、MMWR. 2024;73:180-188L

ワクチンの安全性

各社のワクチンについて、以下のような副作用がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、重大な副作用として、mRNAワクチンについては、ショック、アナフィラキシー、心筋炎、心膜炎、組換えタンパクワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。

発現割合	症状				
	mRNAワクチン				組換えタンパクワクチン
	ファイザー社	モデルナ社	第一三共社	Meiji Seika ファルマ社	武田薬品工業社
50%以上	痛み ^{※1} 、疲労、頭痛	痛み ^{※1} 、疲労、頭痛	痛み ^{※1} 、倦怠感	痛み ^{※1}	痛み ^{※1} 、疲労、筋肉痛、頭痛
10～50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、発熱、下痢、腫れ ^{※2}	筋肉痛、悪寒、関節痛、吐き気・嘔吐、リンパ節の腫れや痛み、発熱、腫れ ^{※1} 、しこり ^{※1} 、赤み ^{※1}	熱感 ^{※1} 、腫れ ^{※2} 、赤み ^{※1} 、かゆみ ^{※1} 、しこり ^{※1} 、頭痛、発熱、筋肉痛	倦怠感、頭痛、悪寒、筋肉痛、関節痛、発熱、めまい、腫れ ^{※2} 、しこり ^{※1} 、赤み ^{※1}	倦怠感、関節痛、吐き気・嘔吐
1～10%	赤み ^{※1} 、リンパ節の腫れや痛み、嘔吐、疼痛	痛み ^{※2} 、腫れ ^{※2} 、赤み ^{※1} 等 ^{※2}	赤み ^{※2} 、腫れ ^{※2} 、かゆみ ^{※2} 、熱感 ^{※2} 、しこり ^{※2} 痛み ^{※2} 、リンパ節の腫れや痛み、発熱、腫の痛み	かゆみ ^{※1} 、下痢、吐き気、嘔吐	腫れ ^{※1} 、しこり ^{※1} 、赤み ^{※1} 、発熱、四肢痛

各社の添付文書より厚労省において作成 ※1ワクチンを接種した部位の症状 ※2接種後7日以降に現れる、ワクチンを接種した部位の症状

他のワクチンとの同時接種

新型コロナワクチンは、医師が特に必要と認めた場合に、インフルエンザワクチンや高齢者に対する肺炎球菌ワクチンと同時接種が可能です。

予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になるたり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副作用による健康被害をなくすることはできないことから、救済制度が設けられています。制度の利用を申し込むときは、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

厚労省 コロナ ワクチン 検索



ホームページをご覧にならない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

お問合せ先

三学会の声明

○ 昨年と同様に学会※と連携してワクチン接種に関する見解を公表。 ※日本感染症学会、日本呼吸器学会、日本ワクチン学会

2025年度の新型コロナワクチン定期接種に関する見解（概要版）

2025年9月1日 日本感染症学会・日本呼吸器学会・日本ワクチン学会

COVID-19の高齢者における重症化・死亡リスクは依然として高く、免疫を逃れる新型コロナウイルスの変異も続いているため、冬の流行に備えて2025年10月から始まる新型コロナワクチンの定期接種を強く推奨します。

高齢者のCOVID-19の重症化・死亡リスクは高い状況が続いています

わが国のCOVID-19による死亡数は、2024年も35,865人（死因順位第8位）と、インフルエンザの死亡数を上回っています。2025年も高齢者のCOVID-19による入院患者数は7月までに3万人を超え、重症化リスクはインフルエンザと同等かそれ以上です。



2024年秋のJN.1系統対応新型コロナワクチンも発症・重症化予防効果を示しました

2024年秋からわが国で使用されたJN.1対応新型コロナワクチンのわが国における発症予防に関する有効率は、JN.1対応ワクチンを接種しなかった場合と比べて、65歳以上で52.5%でした。これは、JN.1対応ワクチン接種群では非接種群に比べて発症率が52.5%減少していたことを意味します。60歳以上の入院予防効果も63.2%であったことが報告されており、重症化予防効果もみられたことが報告されています。

長崎大学熱帯医学研究所. 新型コロナワクチンの有効性に関する研究 (VERSUS研究) ~国内多施設共同症例対照研究~第12報

COVID-19の流行はこれからも続きます

COVID-19は5類感染症に移行後も流行を繰り返しており、2024年と2025年にも冬と夏に流行がみられています。その要因の一つとして、変異株が繰り返し出現していることが挙げられます。オミクロン株は数か月ごとに変異を繰り返し、変異のたびに免疫を回避する力が強まっています。実際に、高齢者施設や医療機関の集団感染が2025年にも2024年と同じレベルで報告されており、感染力は依然として強く、今冬には再び流行が予想されます。

東京都保健医療局感染症対策部. 東京都新型コロナウイルス感染症情報

流行株に対応した新たな新型コロナワクチンの接種が必要です

新型コロナワクチンの発症・重症化予防効果は、変異株の影響もあり、接種後数か月で減衰することが報告されています。これからは、インフルエンザワクチンのように流行株に対応した新たなワクチンの追加接種が必要です。またオミクロン株に一度感染しても、6か月以上経過すると再感染のリスクが増えることが報告されており、COVID-19感染から3~6か月以上経過していれば、ワクチン接種が望まれます。過去の感染歴があっても新たな接種によって免疫力をさらに高めることができます。

Chemaitelly H, et al. Nature 2025

ワクチン製造販売企業との連携（順不同）

- 企業が取り扱うワクチンを接種することができる医療機関の情報を、接種希望者からの問合せに対して個別に提供する問い合わせフォームやコールセンターの仕組みを企業が構築するにあたり、必要に応じて厚生労働省から助言。

Takeda 武田薬品工業株式会社

コロナ情報館

大切な毎日のために
賢くコロナに備えよう！

お薬や、ワクチンに関するお問い合わせ先
サイトの内容や、ご不明点、また、組み換えたんぱくワクチンを接種できる医療機関を確認したい場合など

くすり相談室
☎ 0120-566-587 →
受付時間：9:00～17:30
土日祝日・その他の当社休業日を除く

Webでのお問い合わせ
✉ お問い合わせ内容の件名に要件を記載ください →

もう対策しないで
📞 お問い合わせ先
📄 記事一覧 →

📞 お問い合わせ先をクリックするとポップアップが表示されます

Pfizer ファイザー「新型コロナを学ぶ」サイトの掲載コンテンツ

1 疾患啓発 2 接種施設を探す

検索方法を選択してください

- ✓ 条件を指定して探す
- 📍 現在地から探す
- 🔍 キーワードから探す
- 🚶 路線・駅から探す

ファイザー製ワクチン接種可能施設を確認できる問い合わせフォームは9月中旬リリース予定

ファイザー製ワクチン接種可能施設を確認できる問い合わせフォームは9月中旬リリース予定

- ・ 疾病負荷の情報
- ・ 年齢別の重症化倍率
- ・ 後遺症の発現割合、インフルエンザとの比較...など
- ・ ご自身やご家族の居住地域における新型コロナウイルス接種可能施設の情報を表示
- ・ 各施設におけるファイザー製ワクチンの取り扱い状況を問い合わせ可能

moderna 2 問い合わせフォームを選択 3 接種希望地域を選択 4 当該地域の施設表示

お問い合わせ先をクリックするとポップアップが表示されます

お問い合わせフォームをタップ頂く

お問い合わせ者の方が、接種希望地域を県単位で選択して送信する

お問い合わせありがとうございます。
現在、神奈川県でモデルナワクチンの接種を受けられる医療機関は、以下の通りです。

- ・ XXX クリニック
- ・ YYY 診療所
- ・ ZZZ メディカルセンター

別ウインドウが開き、問い合わせ者の接種希望地域（県単位）における接種可能施設が、即時で表示される

医療関係者向けに、製品情報や市販直後調査、有害事象報告サイト、製品Q&Aなど
一般生活者向けに、新型コロナウイルスや次世代mRNAワクチンのはたらき、Q&Aなどに加え、新型コロナウイルス接種医療機関の検索サイトを掲載
メディア向けに、ファクトブックや記者説明会資料等を掲載

Daiichi-Sankyo これからの新型コロナウイルス感染症の予防と対策

いま、私たちができる感染予防対策は？

被接種者様向けの接種啓発資材を準備し、医療関係者の皆様を通じて、COVID-19ワクチン接種の重要性について情報発信に努めております。

※インターフェースは例示